

経済倶楽部便り

◆東京◆ 自画自賛になってしまいましたが、このところ講演会がタイムリーさを増したと思えてなりません。たとえば中国テーマは党大会の渦中で、政治テーマも衆院解散公表の翌日でした。講師と演題を確定させるのは講演の1〜2カ月前で、同時に葉書にてご案内を差し上げます。この作業スケジュールは不変なのですが、絶妙なタイミングでかつ満足いくお話が伺えるとなると、裏方としてはレジユメ作りのドタバタも苦になりません。さて12月の講演会は、福山隆氏(ダイコ1取締役、元陸将)、浪川攻氏(東洋経済新報社金融担当記者)、森田実氏(政治評論家)と多彩なうえ、総選挙直後という絶妙なタイミングも含まれることになりました。新会員をご紹介します。風早努・山九顧問。

(塚田 紀史)

◆中部◆ 秋の見学会は南海トラフ地震の被害想定で揺れる中部電力の浜岡原子力発電所へ行きました。同発電所は前面が遠浅の海になっており、津波に脆弱だとの指摘から、11年5月に時の菅直人首相の決定で5基の原子炉すべてが稼働停止し、現在に至っています。発電所に隣接する展望塔から遠望すると、発電所前面の海を覆い隠すように海拔18メートル、長さ1・6キロにわたる防波壁がほぼ完成していました。ただし総額1400億円の津波対策工事が完了するのは13年末です。気になるのは稼働再開の時期。前提となる国の安全基準の作成はこれからです。火力発電だけで事足りるとの声も聞かれるだけに、中部電力の説明にもこのほか力がこもっていました。

12月の定例講演会の講師は、『戦後史の正体』の著者で元防衛大学教授の孫崎享氏、JR東海会長の葛西敬之氏です。葛西氏の講演後に恒例の年末懇親会を予定しています。

(日暮良一)